

昭和後期における外来語略語の形成についての考察

余 澤 涛

1. はじめに

明治・大正期と昭和前期の外来語略語について、余2021は語例を収集し、分析を行った。その結果、単語型略語の形成における「前部を保留すること」と「 2σ の長さを保留すること」の原則、複合語型略語の形成における「前か後かを保留すること」、「前単語を保留すること」、「前後結合型」の場合、「 $2\mu + 2\mu$ 」で造ること」の原則が存在することが分かった。外来語略語の造語法は時期によって変化してきたと考える。以上の原則はあくまでも明治・大正期、昭和前期における外来語略語の形成上の特徴である。

そこで、本稿は引き続き、昭和後期に出版された辞書を中心に、略語語例の辞書調査を行った。記述を簡潔するため、略語の語例を「セメント」、「ガイド・ブック」のように書くことにする。大文字の部分は略語化において保留されるものであり、小文字の部分は削除されるものである。略語化を「セメント→セメン」、「ガイド・ブック→ガイド」のように「→」で表す。音節の符号を「 σ 」とし、拍の符号を「 μ 」とする。

本稿において、「原語」という用語は略語の外国語語源を指し、「原形」は「略語形」の元の形であるカタカナ語を指している。「アジテーション」を例にして説明すると、「アジ」は略語形であり、「アジテーション」は原形である。カタカナ語「アジテーション」に対応する〈英語 agitation〉を原語と呼ぶことにする。

2. 外来語略語の分類

外来語略語の分類は余2021に従い、原形の語構成と略語化における保留する部分の位置を基準とする。

略語の原形を見ると、一つの語で構成される単語型外来語（「ダイヤモンド」、「ブランネル」などの類）と二つ以上の語で構成される複合語型外来語（「イブニング・ドレス」、「セコンド・ハンド」などの類）が存在することが明らかである。

単語型外来語が略されて形成したものを「単語型略語」と呼ぶ。略語化において、略語の原形は二分され、原形の前部拍を保留して造られたものは「単語型略語・前部保留型」であり、後部拍を保留して造られたものは「単語型略語・後部保留型」である。例えば、「ダイヤモンド」の略語化において、後部拍「モンド」が削除され、前部拍「ダイヤ」が保留され、略語形になった。この「ダイヤ」は「前部保留型」略語である。一方、「フランネル」が略される際に、後部拍「ネル」は保

留され、略語形になった。そのため、「ネル」は「後部保留型」略語に属する。

複合語型外来語の略語を「複合語型略語」と呼ぶ。「前単語＋後単語」の構成をもつ原形は略語化において、四つのパターンで略されている。

原形の前単語のみが保留され、形成したのは「複合語型略語・前単語保留型」である。「イブニング・ドレス→イブニング」、「フロック・コート→フロック」などはその例である。

後単語のみが保留され、形成したのは「複合語型略語・後単語保留型」であり、語例は「コンデンス・ミルク→ミルク」、「クローズ・アップ→アップ」などがある。

前単語の一部と後単語の一部が結合して形成したのは「複合語型略語・前後結合型」であり、「セコンド・ハンド→セコ・ハン」、「ハンガー・ストライキ→ハン・スト」などの語例が存在する。

最後に、前単語の一部か後単語の一部が保留されて形成した語例もある。「アパートメント・ハウス→アパート」、「デパートメント・ストア→デパート」、「バスケット・ボール→バスケ」などがその例である。このような語例は複合語型略語の略語化と単語型略語の略語化の二段階を経て形成したと考える。これらの語例を「部分抽出型」と呼ぶ。

以上の分類以外に、「原形と不对応の略語」というやや特殊なものが存在するが、その語例について、第4節で詳しく説明する。

3. 語例調査

本稿の調査対象は昭和後期に造られた外来語略語である。語例の収集方法は辞書調査である。1945～1989年出版の外来語辞書、新語辞書、流行語辞書などを調査し、その中の外来語略語を抽出した。集めた語例の中で、明治・大正期、昭和前期出版の辞書に載せられていたものは存在している。本稿は昭和後期出版の辞書に初めて出現した略語語例を分析対象とするため、明治・大正期、昭和前期辞書の語例を外すことにした^{注1}

辞書の書誌情報は次のようである（昭和を「S」で示す。「S23」は「昭和23年」のことである）。

- (1) 40、50年代出版：①日本ジャーナリスト聯盟編著『現代新語辞典 時の言葉解説』（木水社、1948（S23）年） ②第一政経研究所編『新修改版 新聞雑誌語辞典』（第一出版株式會社、1950（S25）年） ③渡辺紳一郎編著『新語百科辞典』（大泉書店、1952（S27）年） ④末松満編『最新時事用語辞典』（法文社、1955（S30）年） ⑤東堀一郎編『増補式 新語百科事典』（光文書院、1957（S32）年） ⑥法学書院編集部編『現代用語辞典』（法学書院、1957（S32）年） ⑦佐藤務編『現代用語辞典』（むさし書房、1959（S34）年） ⑧魚返善雄『外来語小辞典』（研究社辞書部、1959（S34）年）
- (2) 60年代出版：⑨野田全治『経済新語辞典1963年版』（日本経済新聞社、1963（S38）年） ⑩現代語研究会編『現代の流行語』（三一書房、1963（S38）年） ⑪新外来語研究会編『日常の外国語』（日

^{注1} 明治・大正期出版辞書から抽出した語例と昭和前期出版の辞書から抽出した語例は余2021を参照されたい。

東書院、1963 (S38) 年) ⑫森川三都夫著『現代新語と社会常識』(金園社、1965 (S40) 年) ⑬新語研究会編『新時事用語小辞典』(三一書房、1968 (S43) 年)

(3) 70年代出版: ⑭新世代センター編『マスコミ用語事典』(大和書房、1971 (S46) 年) ⑮齋藤栄三郎『現代の常識新語辞典 第二版』(集英社、1974 (S49) 年) ⑯奥山益朗編『現代流行語辞典』(東京堂、1974 (S49) 年) ⑰人事問題研究所編『学習・受験のための現代用語事典』(新星出版社、1976 (S51) 年)

(4) 80年代出版: ⑱岡田秀穂監修『明解外来語辞典』(ナツメ社、1987 (S62) 年) ⑲齋藤栄三郎編『外国からきた新語辞典 第6版』(集英社、1989 (S64) 年)

以上のように、調査した辞書の中に、40、50年代出版の辞書が8冊、60年代出版の辞書が5冊、70年代出版の辞書が4冊、80年代出版の辞書が2冊がある。80年代において、調査した辞書は2冊しかないが、⑱『明解外来語辞典』と⑲『外国からきた新語辞典 第6版』はいずれも500頁以上の分量があり、外来語を網羅的に扱うものである。その中で、⑲『外国からきた新語辞典 第6版』が1989 (平成元年) 年4月に出版されたが、辞書の編集期間を考えると、同辞書が収録する語例はまだ昭和後期以前に造られたものだと考えられる。

略語を認定する基準は辞書の説明とする。「(…は) …の略語」や「(…) は単に…とも言う」のように明確な記載がある語例を略語であると認定した。

- ・ノート・手控、書附 Note (英) 記號標註註釋等、ノートの略言。又紙幣の事にも用ふ。
- ・フロックコート・普通禮式洋服 Frock-coat (英) 洋服の中上衣の長き仕立にして普通禮服なり單に Frock (フロック) と云ふ。

以上の「ノート」と「フロックコート」の説明は明治末期に出版された日本初の外来語辞典『日用舶来語便覧』(光玉館、1912 (明治45) 年) から引用したものである(波線は筆者によるもの)。このような記載は明確であり、このように記載される語例は略語であると認定した。

ただし、以下のような語例を排除した。

(一)、二つ以上の語種で構成される略語。本稿はカタカナ語のみで構成される外来語略語を研究対象とするため、「ニコ中」(原形「ニコチン中毒」)や「エブ亭」(原形「エプロン亭主」)などのような語例を排除した。

(二)、英文字のみで構成される略語。「PR」(原形「パブリック・リレーション」)、「TV」(原形「テレビジョン」)のような語例は外国語略語であり、その形成は外来語略語と異なると考えられるため、それらの語例を調査対象から外した。

(三)、混成語の語例。窪園1995は混成語について、「ゴリラ／くじら→ゴジラ」、「キャベツ／にんじん→キャベジン」の例を挙げ、「混成語形成とは原語となる二つの単語を半分ずつ結合して新しい語を作り出す語形成過程である」と述べている。さらに、混成語形成と複合語短縮との異なる特徴について、窪園1995は「複合語短縮が削除操作の前に付加的操作によって2原語を結合する操作

を経るのに対し、混成語形成はそのような2段階を経ず、2原語がいきなり削除操作を受ける。つまり複合語短縮が「付加操作+削除操作」という2段階から成るのに対し、混成語形成過程は削除操作だけの1過程だけから成っている」と指摘している。

以上の指摘のように、混成語と複合語型外来語とは形成上異なる特徴を持っている。従って、語例収集を行う際に、「アパーテル」（「アパート」と「ホテル」の混成）、「テレート」（「テレホン」と「デート」の混成）などのような混成語を排除した。

4. 原形と不对応の略語

4.1. 単語型略語・原形と不对応の略語

外来語略語の中で、一部の略語形が原形の持たない拍を持ち、原形との不对応があることが観察される。このような語例を「原形と不对応の略語」と呼ぶ。「原形と不对応の略語」は様々な原因で形成したため、統一の規則で説明するのは無理がある。短縮で形成した略語を分析する前に、本節をもって辞書調査で初出した「原形と不对応の略語」の形成について説明したいと考える。

単語型略語の中で、初めて出現した「原形と不对応の略語」は20例がある。それぞれは「テレビジョン→テレビ」、「キャプテン→キャップ」、「メンシズ→メンズ」、「コンビネーション→コムボ」、「チタニウム→チタン」、「ウラニウム→ウラン」、「コレスボンデンス→コレス」、「ハンディキャップ→ハンディー」、「アクリロニトリル→アクリル」、「ニヒルズム→ニヒル」、「ニヒルスト→ニヒル」、「コンセントレート→コンク」、「サキソホン→サククス」、「ニヒリスティック→ニヒル」、「ノッキング→ノック」、「パレンセシス→パーレン」、「パイナップル→パイン」、「コーペラティブ→コープ」、「スペシフィックेशन→スペック」、「テレコミュニケーション→テレコム」である。その形成について、以下の原因が考えられる。

(一)、原語にそもそも省略形があり、その省略形を転写したもの。例えば、「コンビネーション→コムボ」において、原形「コンビネーション」は<英語 combination>から由来し、「四、五人から七、八人位までの小編成のジャズ楽団」の意味を持っている（⑤『増補式 新語百科事典』の「コムボ」項目を参照）。英語の中で、<combination>は<combo>に略されている。つまり、<combo>も「小編成のジャズ楽団」の意味を持っている（『ランダムハウス英和大辞典 第2版』（小学館、1994）の「combo」項目を参照）。略語形「コムボ」は恐らく<英語 combo>を転写したものであろう。

同じように、「キャプテン→キャップ」の略語形「キャップ」について、②『新修改版 新聞雑誌語辞典』は「キャップ (cap 英) 学生帽、鳥打帽、又共産黨の細胞の責任者 (キャプテン) の略」というように説明している。原形「キャプテン」は首領、統率者の意を持ち、<英語 captain>から由来したものである。『ランダムハウス英和辞典第二版』の「cap」についての説明により、<英語 cap>は<captain>の短縮形であることが確認できる。そのため、原形と不对応略語である

「キャップ」も＜英語cap＞から転写したものであると考えられる。

その他、「サキソホン→サククス」の略語形「サククス」は＜英語sax＞を転写したもの、「コンセントレート→コンク」の略語形「コンク」は＜英語conc＞を転写したもの、「コーペラティブ→コープ」の略語形「コープ」は＜英語coop＞を転写したもの、「テレコミュニケーション→テレコム」の「テレコム」は＜英語telecom＞を転写したものであろう。

(二)、異なる言語からきたもの。例えば、「チタニウム→チタン」において、原形「チタニウム」について『日本国語大辞典第二版』（小学館、2000～2002）は「{ラテン} titanium 《チタニウム・チタンニウム》」というように説明している。略語形「チタン」について、同辞書は「{ドイツ} Titan」と書いてある。つまり、「チタニウム」はラテン語から由来し、「チタン」は独語から由来するものである。両者は原形と略語形の関係であると言うより、異なる言語からきたものであると考えられる。

同じように、「ウラニウム→ウラン」において、原形「ウラニウム」は＜英語uranium＞に対応するのに対し、略語形「ウラン」は＜独語Uran＞に対応している（『日本国語大辞典 第二版』の「ウラニウム」、「ウラン」項目を参照）。

(三)、原語をカタカナ語にする時に、表記がゆれたため複数の表記があるもの。例えば、「テレヴィジョン→テレビ」において、原形「テレヴィジョン」は＜英語television＞から由来したものである。＜television＞がカタカナ語に転写する際に、「テレヴィジョン」や「テレビジョン」のように表記される。「テレビジョン」を略すと、略語「テレビ」になる。そのため、「テレヴィジョン」の略語形も「テレビ」になってしまう。

同じように、「コレスポネンス→コルレス」において、原形「コレスポネンス」は＜英語correspondence＞に対応している。＜correspondence＞のカタカナ語表記に「コレスポネンス」と「コルレスポネンス」が見られる。そのため、略語「コルレス」の形成も原語の日本語表記の揺れと関わっている。

(四)、接辞の削除によって形成したもの。余2019は「語基+接尾辞」の語構成を持つ単語型外来語の略語化において、接尾辞が削除され、語基が略語形になることがあると述べた。「ニヒリズム→ニヒル」において、原形「ニヒリズム」は虚無主義の意を表し、＜英語nihilism＞から由来する。原語＜nihilism＞は＜語基nihil+接尾辞ism＞の構成を持っていることが明らかである。それで、「ニヒリズム」は略される際に、接尾辞＜ism＞に相当する「リズム」の部分が削除され、語基＜nihil＞に相当する「ニヒル」が保留され、略語形になったと考えられる。

「ニヒリスト→ニヒル」において、原形「ニヒリスト」（＜英語nihilist＞）は略される際に、接尾辞の「リスト」（＜ist＞に）が削除され、語基「ニヒル」（＜nihil＞）が略語形になった。

4.2. 複合語型略語・原形と不对応の略語

複合語型略語の中で、初めて出現した「原形と不对応の略語」は「オートマシーン→オートマツト」、「ルーズ・スクラメージ→ルーズ・スクラム」、「ゲネラル・プラン→ゲン・プラン」、「スコットランド・ウイスキー→スコッチ」、「ファイティング・スピリット→ファイト」、「スライディング・スケール→スライド」、「メチル・アルコール→メーチル」、「サイバネチック・オーガニズム→サイボーグ」、「シュラフ・ザック→シラフ」、「シンクロナス・コミュニケーション→シンコム」、「エコノミック・クーポン→エック」、「テクニカル・センター→テック」、「トラディショナル・スタイル→トラッド」の13例がある。その形成について以下の原因が考えられる。

(一)、原語にそもそも省略形があり、その省略形を転写したもの。「ルーズ・スクラメージ→ルーズ・スクラム」において、原形を構成する「スクラメージ」は<英語 scrummage>から由来し、ラグビー用語の一つである。『井上英和大辞典』（井上辞典刊行会、1925）はこの英語について「(Rugby football にて；通常 scrummage, 又 scrum と略す) 両方の前衛全部地上に毬を挟み押合ふこと」と説明している。英語の中で、ラグビー用語としての<scrummage>は<scrum>に略されることが分かる。そのため、「ルーズ・スクラメージ」が「ルーズ・スクラム」に略されるのは原語の省略形の影響で、「スクラメージ」が「スクラム」に略されたからである。

「ゲネラル・プラン→ゲン・プラン」において、略語形「ゲン・プラン」はおそらく<露語 gen pran>を転写したものである。「シンクロナス・コミュニケーション→シンコム」の「シンコム」は<英語 syncom>を転写するものである。「サイバネチック・オーガニズム→サイボーグ」において、英語の中で、「サイバネチック・オーガニズム」の原語<cybernetic organism>は<cyborg>に略されている。略語形「サイボーグ」はおそらく<英語 cyborg>を転写したものであろう（『日本国語大辞典 第二版』「サイボーグ」項目を参照）。

(二)、原語をカタカナ語にする時に、表記がゆれたため複数の表記があるもの。「メチル・アルコール→メーチル」において、原語を構成する「メチル」（<独語 methyl>）は「メーチル」に表記されることがあり、表記のゆれが見られる（『日本国語大辞典 第二版』の「メチル-アルコール」項目を参照）。そのため、複合語型外来語「メチル・アルコール」は「メチル」に略されたが、表記のゆれが原因で「メーチル」も「メチル・アルコール」の略語形になったことが考えられる。

「シュラフ・ザック→シラフ」の形成も表記のゆれと関わっている。「シュラフ・ザック」は<独語 schlafsack>から由来し、寝袋を指している。原語のカタカナ語表記は「シュラフザック」、
「シュラフザック」があるが、それ以外に「シラフザック」の表記も見られる。そのため、原形と不对応の略語「シラフ」の形成も表記のゆれと関わっていると考えられる。

(三)、接辞の削除によって形成したもの。「スライディング・スケール→スライド」において、略語「スライド」が対応するのは<英語 slide>である。原形「スライディング・スケール」は<英語 sliding scale>に対応する。<slide>は接尾辞<-ing>を付け、<sliding>になる。英語の中

で<slide>という動詞があるため、この語例の略語化を「スライディング・シート→スライディング (= sliding) →スライド (= slide)」のように考えたほうがよい。略語「スライド」の形成において、接辞による分節が略語化への影響が観察される。

5. 単語型略語の語例

既に述べたが、明治・大正期、昭和前期の外来語略語について余2021は分析したため、それらを外し、本発表では初めて出現した外来語略語だけを対象とする。そこで、以下の語例が見られる。

- (5) 単語型略語・前部保留型：アセスメント アクセル (acceleratorの略) アニメーション アドレス
 アブノーマル アポイントメント アツペンディックス アナクロニズム アマチュア アレンジメント アンブリファイア
 イミグレーション イラストレーション インストラクション インターナショナル インターチェンジ インフレーション
 インテロダクション インポテンツ ヴァンガード エキスポジション オートメーション オケストラ オペレーション
 カルチ (cultivatorの略) カンパニア [カンパニユ、カンパニヤ]^{注2} ギャバジン キヤフテリア
 ギャランティ キャップテン キロメートル キロサイクル キロワット キロリットル ゲバルト コーポラス コ
 ジェネレーション コネクション コンティニューティ コンパートメント コンパチブル コンペティション コンポ
 ネット サイケデリック サディスト サディズム サドマゾヒズム サブコントラクター サボタージュ シネ
 (cin cameraの略) ジャイロコンパス ジャイロスコープ シュールレアリスム ジュラルミン シルリン ジム
 ナジウム シンクロナイズ シンボジウム スキゾフレンシア スタジオ セミナール スペシャル ダイナモーター
 タグポート ダダイズム チョコレート デイスコテーク デュープリケート デフレクション テレビジョン デノ
 ミネーション トイレット トランスフォーマー ネゴシエーション パースペクティブ ハイドロキノン ハイドロリック
 パイロ (pyrogallolの略) ハンディキャップ ヒステリー ビューティー ヒドラジッド ヒヨス (hyoscyamus
 の略) ピント フラクション ブルドーザー プロセント プロフェッション ヘテロセクシュアル ヘルメット ホモ
 ジナイズ ホモセクシュアル ポルノグラフィ マクロスコピック マンネリズム ミクロスコピック ミリバル ミリ
 グラム ミリアンペア メガサイクル メロディ メンス (mentholatumの略) モノクローム ヤロビ
 (jarovizatsijaの略) ラボラトリー リスケジュリング リハビリテーション リフレクション ルポルターージュ レ
 ジスター レズビアン レフレックス
- (6) 単語型略語・後部保留型：アルバイト ダイナマイト ヒロポン ジステンパー パントマイム キャラバ
 ン アドバンス

以上のように、昭和後期の単語型略語は総計118例を集めた。その中で、「前部保留型」は111例、「後部保留型」は7例がある。

明治・大正期、昭和前期の語例と昭和後期の語例との数量的比較を表1で示す。

^{注2} <露語 kampaniya>はカタカナ語表記に揺れがあり、異なる辞書によって「カンパニア」、「カンパーニユ」、「カンパーニヤ」に表記されている。このような表記の揺れがある語例は統計上に一つの語例として扱い、括弧を使ってその表記のゆれを示す。

表1 単語型略語の量的変化

	明治・大正期	昭和前期	昭和後期
前部保留型	56例 (87.5%)	52例 (約85.2%)	111例 (約94%)
後部保留型	8例 (12.5%)	9例 (約14.8%)	7例 (約6%)

表1を見ると、昭和後期の単語型略語において、「前部保留型」、「後部保留型」の割合は大きな変化が起こっていないが、「前部保留型」の数は明治・大正期、昭和前期と比べて、かなり増えた。その原因について、第7節で複合語型略語の増加と合せて説明する。

6. 単語型略語の形成

6.1. 「前部保留型」語例

昭和後期の単語型略語において、「アブノーマル」、「コネクション」、「スペシャル」などのような「前部保留型」は数が圧倒的に多く（111例、全体語例の9割以上）、それに対し、「後部保留型」の語例はわずか7例がある。両者の数量の差を見ると、単語型外来語の略語化において、原形は前部の拍を保留する傾向が非常に強く、「前部保留型」は単語型略語の主流形式であることが分かる。その原因はやはり前の部分を保留したほうが原形を復元しやすいことである（鈴木1996を参照）。

6.2. 「後部保留型」語例

昭和後期において、「後部保留型」という省略パターンは生産性がさらに低くなり、語例は「アルバイト」、「ダイナマイト」、「ヒロポン」、「ジステンパー」、「バントマイム」、「キャラバン」、「アドバンス」の7例しかない。「前部保留型」は原形の前部を取るのに対し、「後部保留型」は原形の後部拍を取ったものであり、以下のように、語彙的な原因で形成したと考えられる。

(一)、外国語の略語を転写したもの。語例の中で、「キャラバン」の原形「キャラバン」は<英語 caravan>から由来し、有蓋貨物自動車を指している。外国語の中で、<caravan>は<van>に略されているため、略語「バン」は<英語 van>を転写したものであろう。「バントマイム」は<英語 pantomime>から由来し、無言劇、默劇の意味を持っている。英語の中で、<mime>という語は同じ意味を持っている。略語「バントマイム」は<mime>を転写したものであろう。

(二)、隠語、俗語、集団語の性質を持つもの。例えば、略語「アルバイト」は最初の段階において学生の間に使われ、隠語的、集団語的な性質を持っていると考えられる。①『日常の外国語』は「アルバイト」について、「①労働。仕事。②研究業績（学問上の労作）③（以上の意味から）始め学生の内職を、隠語的な意味で使われていたのが一般化したもの。日本だけの使用法で、内職、副業」と説明している。三輪卓爾1966「「アルバイト」史・断片」（『言語生活』173号、筑摩書房）も「内職」の意味のアルバイトが「おそらく学生語、それも旧制高校語にまずまちがいあるまい」と指摘し、「「バイト」という省略した形も（筆者中略）使っていた」と述べている。以上のように、「ア

ルバイト」は学生の間に「内職」という意味で使われ、後に「バイト」に略されたであろう。

「ヒロポン」(<英語 philopon>)は中枢神経興奮剤、いわゆる覚せい剤のことを指している。その略語形「ヒロポン」は恐らく隠語の性質を持っているであろう。因みに、『新修 隠語大辞典』(皓星社、2017)は「ばん チクロパン。省略語。〔覚せい剤・麻薬犯〕警察隠語類集 一九五六」のような、覚醒剤、麻薬の「チクロパン」が「パン」に後略される例を載せている。「ヒロポン」のような覚醒剤、麻薬関連語は人にばれないように、「後略保留型」に略されることがよくあるであろう。

「アドバンス」は後部の拍が保留され、「バンス」に略される。略語形「バンス」について、『現代用語の基礎知識 2019年版』(自由国民社、2019)は「前払い、前金。「手打ち」のアドバンスから語頭を省略した日本的な隠語。銀座のホステスなどは「前借り」の意味で用いる」と説明している。「バンス」も隠語的な性質を持っているであろう。

「ジステンパー」(<英 distemper>)は不機嫌や犬の伝染病を指している。「ガイナマイト」(<英 dynamite>)は爆薬のことを指している。略語「テンパー」、「マイト」は俗語的な性質を持っている可能性がある。「マイト・ガイ」は俳優の小林旭の綽名としてつけられ、小林氏の性格の豪快さを表している。「ガイ」は<英語 guy>に対応し、「マイト」は「ダイナマイト」の「後部保留型」である。略語形「マイト」は俗語的な性質を持っているであろう。

以上のように、外国語を転写したものを除き、原形を隠語、集団語、俗語のような性質を持たせることは「後部保留型」語例が形成した主な原因であると考えられる。

6.3. 略語形の長さ

単語型略語の音節数、拍数は以下のものである。

表2 単語型略語の音節数、拍数

音節数	拍数	語例
1σ (5例)	1σ、2μ	ビュー <small>テイ</small> ー、ピン <small>ト</small> など・・・5例
2σ (69例)	1σ、2μ	コネ <small>ク</small> ション、スペ <small>シ</small> ャル、プロ <small>グ</small> ラム、チョコ <small>レ</small> ート など・・・45例
	2σ、3μ	インポ <small>テ</small> ンツ、カンパ <small>ニ</small> ー、トイ <small>レ</small> ット など・・・20例
3σ (36例)	2σ、4μ	ハンデ <small>イ</small> キャ <small>ッ</small> プ、ジ <small>ス</small> テン <small>パ</small> ー など・・・4例
	3σ、3μ	デフ <small>レ</small> ー <small>シ</small> ョン、テレ <small>ビ</small> ジ <small>ョ</small> ン、フラ <small>ク</small> シ <small>ョ</small> ン など・・・22例
	3σ、4μ	インフ <small>レ</small> ー <small>シ</small> ョン、オ <small>ー</small> トメ <small>ー</small> シ <small>ョ</small> ン、シン <small>ク</small> ロ <small>ノ</small> イズ など・・・13例
4σ (8例)	3σ、5μ	コンパ <small>ー</small> ト <small>メ</small> ント ……1例
	4σ、4μ	アナ <small>ク</small> ロ <small>リ</small> ズ <small>ム</small> 、イラ <small>ス</small> ト <small>レ</small> ー <small>シ</small> ョン など・・・8例

単語型外来語は略される際に、2σの長さを保留して略語形を造るのは最も多く、単語型略語全体の約6割を占めている。その拍数から見ると、2σ語例の中で、「コネクション」、「スペシャル」のような「2σ、2μ」(2音節、2拍の構成)を持つもの、「インポテンツ」、「カンパニー」のような「2σ、3μ」のもの及び「ハンディキャップ」、「ジステンパー」のような「2σ、4μ」のものがある。「2

σ、2 μ」の語例は長音、撥音などの特殊拍を含まない。「2 σ、3 μ」の語例は1 μの特殊拍、「2 σ、4 μ」の語例は2 μの特殊拍を含んでいる。いずれにせよ、原形の2 σを取って略語形を造るのは主流である。

2 σを取らない略語も存在する。1 σの語例は「ビュー_{ティ}ー」、「ピント」、「ヴァン_ガード」、「ヒロ_ポン」、「キャ_ラバン」がある。その形成について、二つの原因が考えられる。

(一)、外国語を転写したもの。既に述べたが、「キャ_ラバン」は<英語 van>を転写したものであろう。その他、「ヴァン_ガード」は<英語 vanguard>から由来し、先駆、前衛の意味を持っている。英語の中で、<van>という語も同じような意味を持っているため、略語「ヴァン_ガード」は<英語 van>を転写したものであると考えられる。

(二)、原形の短さに制限されて形成したもの。鈴木1996は語例調査を行い、「単一語の略語（筆者注：本稿の「単語型略語」に相当するもの）は2拍語から3拍語、4拍語、5拍語までである」と述べている。Ito1990も1拍の略語形が不適格であると指摘している。つまり、情報伝達するために、略語は最低限に2拍（あるいは1音節）を持つ必要がある。「ビュー_{ティ}ー」、「ピント」はいずれも2 σしか持っていない。その略語化において、削除できるのは最大1 σ（あるいは1 μ）である。そのため、これらの語は1 σの略語形に略されるしかない。

隠語的性質を持たせるため、覚醒剤を意味する「ヒロ_ポン」を「後部保留型」の省略パターンで略すことになる。単語型略語の形成において、2拍構成の生産性が高いため、原形が「ヒロ_ポン」に略されたと考える。

3 σと4 σの語例は44例がある。その形成について、以下のような原因が考えられる。

(一)、外国語を転写したもの。「エキ_スポ_ジション」は<英語 exposition>に対応している。英語の中で、<exposition>は<expo>という略語がある。略語「エキ_スポ_ジション」は<expo>を転写したものであろう。同じように、「ポ_ルノ_グラ_フィー」は<英語 porno>を転写したもの、「ディス_コテ_ー」は<disco>を転写したものであろう。このような外国語略語を転写した語例は日本語の造語法に従わず、3 σや4 σを持つことがある。

(二)、原形がさらに分けることができるもの。単語型外来語の中でも、原形をさらに分けることができるものが存在しており、その分節は略語化に影響を与えることがある。

まず、接辞を持つ語例は「語基+接尾辞」あるいは「接頭辞+語基」の構成を持っていると見なせる。例えば、「アナ_クロ_ニズ_ム」は<英語 anachronism>に対応している。原形が接尾辞「ニズ_ム」(<~ism>)を持っているため、「アナ_クロ_ニズ_ム」は「アナ_クロ（語基）+ニズ_ム（接尾辞）」の構成を持っていると考えられる。従って、略語化過程において、原形は接尾辞にあたる「ニズ_ム」が削除され、語基の「アナ_クロ」が保留されて略語形になった。「コン_パート_メント」は「コン_パート（語基）+メント（接辞）」の構成を持っている。略される際に、後部にある接辞にあたる「メント」が削除され、前部にある「コン_パート」が略語形として保留された。

次に、言語意識上の複合語が存在すると考える。「イブニング・ドレス」、「アルバイト・サロン」などのような複合語型外来語が存在する一方、語構成から見ると単語型であるが、言語意識上に複合語型のような構成を持っている語は存在し、その略語が往々にして3σ以上を持っていると考える。例えば、「テレビジョン」(<英television>)は語構成上に単語型外来語である。しかし、「テレビジョン」の「テレ」(<tele>)は遠隔という意味を持っており、「ビジョン」(<vision>)は見えることの意味を持っている。ということによって、「テレビジョン」は「テレ+ビジョン」の構成を持っていると思われることがあるであろう。

「インフレーション」と「デフレーション」は対として見る必要がある。両者は反対の意味を持っており、形態的に対立している。「インフレーション」は「イン+フレーション」の構成を持つのに対し、「デフレーション」は「デ+フレーション」の構成を持っていると見なせる。従って、「インフレーション」の略語形は「イン+フレ」^{注3}になり、「デフレーション」の略語形は「デ+フレ」になった。

「オートメーション」もその1例であると考えられる。「オート・バイシクル」、「オート・マチック」などの語があるが、「オート」は自動的という意味を持ち、形容詞的な性質を持っている。そのため、「オートメーション」は「オート+メーション」の構成を持っていると思われる可能性がある。略語形の形成において、自立性を持つ「オート」がそのまま残されて、「オートメ」が造られたと考えられる。

以上のように、外国語略語をそのまま転写した語例を除き、単語型略語の形成において、略語形は2σの長さを志向されやすく、その語例は最も多く存在する。一方、原形の長さに制限されて1σの略語が造られ、原形の分節が略語化過程を影響して3σや4σの略語も造られた。

7. 複合語型略語の語例

昭和後期において初めて出現した複合語型略語の具体例は以下のようである。

(7) 複合語型略語・前単語保留型：アーガイル・チェック アイビー・ルック アスコット・タイ アップ・ス
 タイル アップ・ヘア アフロ・ヘア アプレ・ゲール アロハ・シャツ イージー・ゴーイング イブニング・ドレス
 イレギュラー・バウンド ヴアラエティ・ショウ ウィンナー・ソーセージ ウェスターン・ミュージック ウェスト・
 ボール ウォーキング・レース エクスプレッス・トレイン エレクトロン・メタル エンゲージ・リング エンバ
 イロメント・アート オートマテイツク・レヴォルヴァー オートマチック・ピストル オムニバス・フィルム オル
 グ・ビューロー ガター・ボール カット・プレー カブ・スカウト カレー・ライス キャピタル・レター クリーンアッ

^{注3} 第8節で記述するが、「2μ+2μ」は複合語型略語の主流形式の一つである。

プ・トリオ クリスタル・ガラス クロス・カントリー・レース^{注4} ゴールド・バーマ コマーシャル・メッセージ
 コロニアル・スタイル コンタクト・レンズ サーキット・ドライヴ サラ・プレット サウンド (sound picture
 の略) サンタ・クロース シームレス・ストッキング シェパード (shepherd dogの略) ジェット・エンジン
 ジェット・プレーン シャープ・ペンシル ショルダー・バッグ シュラフ・ザック スーパー・ヘテロダイナ スーパー・
 インボーズ スーパー・マーケット ズーム・レンズ スウィッチ・バッティング スクラッチ・レース スクイズ・プレー
 スクラッチ・ノイズ スコッチ・ウイスキー スコッチ・ツイード ステンレス・スチール ステンシル・ペーパー ス
 トリップ・ショー スナック・バー スパイク・シューズ スプリング・コート スポット・ライト スポット・アナウ
 ンスメント スポット・コマーシャル スポンジ・ボール スモーキング・ジャケット セCONDグリー・グライダー ソフト・
 アイスクリーム ソフト・ウエア クローク・ルーム クロール・カルキ ケーブル・カー ゴースト・イメージ コース
 ター・ブレーキ ターボ・チャージャー タイプ・ライター ダイニング・ルーム タイムリー・ヒット ダスター・コート
 タップ・ダンス ダッチ・アカウンタ ダブル・プレスト チェーン・ストア ツーリスト・ビューロー ツイン・ベッド
 ツイン・ルーム デイゼル・エンジン テキスト・ブック トイレット・ルーム ドライヴ・ウエー ドライ・クリー
 ニング トランク・ルーム トランジスタ・ラジオ トリップル・ヒット ナックル・ボール ナンバー・プレート ナ
 ンバリング・マシン ネオン・サイン ネット・ワーク パーマネント・ウエーブ バーゲン・セルハー
 ド・ウエア パート・タイム ハイヤー・カー バスケット・ボール バスター・バント パチンコ・ゲーム バック・
 ストローク バック・ハンド パナマ・ハット バレー・ボール ハンド・プレス パンク・ロック パント・キック ビキ
 ニ・スタイル ファウル・ボール ファンデーション・ガゼット フィギュア・スケートフィギュア・ダンス
 フォーク・ソング フリー・ランス プリマ・ドンナ プリマ・バレリーナ フラッシュ・バック フラッシュ・ライト
 フラッシュ・バルブ ブロード・クロース フルファッシュン・ストッキング ブレーン・トラスト フロント・オフィス
 ボー・タイ ボルカ・ジャケット マジック・インキ マネキン・ガール マルチ・フィラメント マンサード・ルーフ
 ミニ・テープ・レコーダー^{注5} ミュージカル・コメディ メチル・アルコール メドレー・リレー メドレー・レースモー
 ニング・サービス モノラル・レコード モンキー・ランチ ヨード・チンキ ユーティリティ・ルーム ライカ・カメ
 ラ ラグラン・スリープ ラッシュ・アワー ラッシュ・プリント ラフ・スケッチ ランニング・シャツ ラジオ・テレフォ
 ン ラジオ・テレグラフ ラジオ・プロドキャストン グラフ・コート ラップ・タイム リーゼント・スタイル リビ
 ング・ルーム リユック・サック リリーフ・ピッチャー レザー・クロス [レザー・クロース] レギュラー・メンバー
 ロー・ギア ロック・ミュージック ワイヤ・ロープ
 (8) 複合語型略語・後単語保留型: アル・ヌーボー アイス・スマック アイスクリーム・コーン マグネチック・イレー
 ザー アトミック・パイル アンカー・ボルト ウインド・ヤッケ ウォーター・メロン オン・ザ・ロック クロール・カル

注4 「クロス・カントリー・レース」は三つの語からなっているが、[[「クロス」カントリー]「レース」]のよ
 うな構成を持つと見なせる。「クロス・カントリー」は原形の前単語にあたり、「レース」は後単語にあたる
 と考えられる。

注5 「ミニ・テープ・レコーダー」は[[「ミニ」テープ]「レコーダー」]のような構成を持つと見なせる。「ミニ・
 テープ」は原形の前単語、「レコーダー」は原形の後単語にあたる。

キ シッピング・コンファレンス ステーション・ワゴン セメント・モルタル バース・コントロール サマリオン・ゲー
ブル スウィミング・プール ストップ・テール・ライト ゴルフ・リンクス コミュニスト・マニフェスト タイム・レコー
ダー ダンス・ホール テーブル・クロス テーブル・ナイフ テープ・デッキ ツーリスト・ビューロー ニュース・キャ
スター パーマネント・ウエーブ ハウス・メード ファッション・モデル フィールド・ホッケー フォックス・トロット
プラット・ホーム ボール・ベアリング ボルト・ネック ヘア・トニック ベーキング・パウダー ユース・ホステル
ラジオ・テスター レコード・プレイヤー ローラー・コースター ロープ・デコルテ ロック・クライミング

(9) 複合語型略語・前後結合型：アウト・ドロップ アチーブメント・テスト アドヴァンタイズメント・ビルディング
アニメーション・ドラマ アフター・レコーディング アメリカン・フットボール アルバイト・サロン アルコール・
コミュニケーション アンダー・グラウンド イメージ・チェンジ エア・コンディショナー エコノミー・ラン エバ・
ミルク (evaporated milkの略) エンジン・ストップ エンジニアリング・プラスチック ヴァリアブル・コンデンサー
オネスト・ジョン オフ・ザ・レコード^{注6} オフィス・コンピュータ オプティカル・アート オフ・リミット
オン・パレード ガス・クロマトグラフィ カンニング・ペーパー カメラ・リハーサル ケアレス・ミステーク
コマース・ソング サウンド・トラック サステイニング・プログラム ジーン・パンツ シヤープ・ペンシル
ジャパニーズ・イングリッシュ シネマ・スコop スケート・ボード スタジアム・ジャンパー スターティング・
メンバー ステーション・ブレイク ステابل・ファイバー スピード・グラフィック スロー・モーション ゼネラル・
コントラクター セントラル・リーグ セミ・プロフェッショナル デイス・インテリゲンチヤ デイフェンス・コンディ
ション デモンストレーション・テープ テレホン・カード テレビジョン・ブロードキャスト テレビジョン・コンテニュー
ティ テレホン・ラブ デ・ポ (delivery postの略) トイレット・ペーパー ドライビング・コンテスト ドレス・
メーカー トレーニング・パンツ ニュー・トラディショナル ノー・ネクタイ ノー・ブレックファースト ノー・
ブラジャー ノー・クラッチ ノン・プロフェッショナル ノン・ポリテイカル バー・テンダー パート・タイム
パーソナル・コンピュータ ハイ・オクタン ハイ・テクノロジー パトロール・カー パシフィック・リーグ バ
リアブル・コンデンサー バリケード・ストライキ パンティ・ストッキング ヒステリシス・ノイズ ピケット・ライ
ン ファミリー・コンピュータ プロレット・カルト プロフェッショナル・レスリング プラ・モデル (plastic
modelの略) ブルガーニン・ライン ベース・アップ ヘリコプター・ポート ベリフィケーション・カード ボディ・
ビルディング ボディー・コンシャス ホップ・ステップ・エンド・ジャンプ^{注7} ポケット・コンピューター ポケット・
ベル マイクロフォン・ロケーション マイクロ・コンピュータ ストレプトマイシン ダイナマイト・ガイ マザー・
コンプレックス マス・プロダクション マス・コミュニケーション マス・コンセンション マテリアル・ハンドリング
マネージメント・スタッフ マネー・ビルディング マルクス・ボーイ マルクス・エンゲルス マルティプル・チヨイ

^{注6} 「オフ・ザ・レコード」は [[[オフ] ザ] [レコード]] のような構成を持っていると考える。「オフ・ザ」の部分は前単語にあたり、「レコード」の部分は後単語にあたる。従って、略語「オフ・レコ」を「前後結合型」に分類した。

^{注7} 「ホップ・ステップ・エンド・ジャンプ」において、「ホップ・ステップ・エンド」の部分を原形の前単語とし、「ジャンプ」を後単語とすると、略語形「ホ・ス・ジャンプ」は前単語の2拍「ホス」と後単語「ジャンプ」が結合して形成したものであると見なせる。従って、この例を「前後結合型」に分類した。

ス ミニ・コミュニケーション ミデイ・コミュニケーション ムント・セラピー モダン・マダム ヨード・チンキ
 ラジオ・コントロール ラジオ・カセット リモート・コントロール レクリエーション・モニター レデイーミックス・
 コンクリート ロリータ・コンプレックス ワード・プロセッサ ワンダー・フォーゲル

(10) 複合語型略語・部分抽出型：アチーブメント・テスト コンポネント・ステレオ パーマネント・ウェーブ パー
 スペクティブ・ドローイング パンクロマチック・フィルム プログレッシブ・ロック プレハブリケーテッド・ハウス ボップド・ヘ
 ア モノラル・レコード ランゲージ・ラボラトリー レフレックス・カメラ

以上のように、複合語型略語について総計333例を集めた。その中で、「前単語保留型」は167例、「後単語保留型」は41例、「前後結合型」は114例、「部分抽出型」は11例がある。

明治・大正期、昭和前期、昭和後期の語例数を以下の表3にまとめた。

表3 複合語型略語の量的変化

	明治・大正期	昭和前期	昭和後期
前単語保留型	42 (約59%)	63 (約54%)	167 (約50%)
後単語保留型	18 (25%)	29 (約25%)	41 (約12%)
前後結合型	6 (約8%)	17 (約14%)	114 (約34%)
部分抽出型	6 (約8%)	8 (約7%)	11 (約4%)

語例数から見ると、明治・大正期（72例）から、昭和前期（117例）を経て、昭和後期（333例）まで、複合語略語の数は徐々に増える傾向が見られる。

前の時期と比べ、昭和後期の外来語略語（単語型略語、複合語型略語）の総量はかなり増えた。その原因はやはり日本は外国と交流が深まることによって、多くの複合語型外来語が輸入され、さらに略されたことが考えられる。橋本2010は20世紀10年代から21世紀初期まで約95年間分の朝日新聞社説に出現した外来語を調査した。その結果、40年代に出現した外来語は89例があるが、50年代になると、その数が156例になり、60年代になると、さらに369例になった。この調査から日本語外来語数の急増が窺える。

省略パターンから見ると、昭和後期に入り、「前後結合型」が複合語型略語の一つの主流形式になった。これは昭和後期の複合語型略語における大きな変化点である。明治・大正期において、「前後結合型」の割合は約8%、昭和前期は約14%であり、昭和後期になると、その割合はかなり高くなり、約34%になった。

「前後結合型」の増加について、三つの原因が考えられる。

(一)、原形を復元しやすいこと。隠語の性質を持っている一部の語を除き、略語を造る際に、略語形を見る（聞く）と、原形を復元できるかどうかを考える必要がある。前を取る「前単語保留型」と後を取る「後単語保留型」と比べ、前の一部と後の一部を取る「前後結合型」ほうが原形を復元しやすいと考える。

(二)、「前後結合型」の省略パターンで造られた略語は音節数（拍数）が日本語の音韻構造に合致

すること。(9)で挙げた語例を見ればわかるが、多くの「前後結合型」略語は原形の前単語の2 μ と後単語の2 μ を取って結合させて造ったものである。そのため、「アル・サロ」、「アフ・レコ」、「カメ・リハ」のような「2 μ +2 μ 」構成の略語が造られる。日本語、とくに漢語の中でも、「がっこう」(「学校」)、「まいにち」(「毎日」)、「せいかつ」(「生活」)などの4 μ 構成の語彙が多くある。

(三)、略語化における語彙的ブロック。同音衝突を避けるため、新しく略語を造る際に、略語形は既に存在した略語と同じような形を取りにくくなる。複合語型略語を造る際に、「前単語保留型」の省略パターンで略すと、他の略語と形態的に被る場合がある。このような語彙的ブロックを避けるため、「前後保留型」の省略パターンで略語形を造ることが考えられる。

8. 複合語型略語の形成

近代語における複合語型略語の形成について、余2021は「原語を語レベルで略すこと」、「原語の前単語を保留すること」、「2 μ +2 μ 」で「前後結合型」を造ることの原則があると述べた。

今回の調査で収集した語例を見る限り、明治・大正期、昭和前期と比べて、昭和後期の外来語略語は形成上に共通点があるものの、相違点も見られる。これから、昭和後期における複合語型略語の形成を分析していく。

8.1. 「前単語保留型」について

複合語型略語の中で、「前単語保留型」は167例がある。41例の「後単語保留型」、114例の「前後結合型」、11例の「部分抽出型」と比べて、「前単語保留型」は複合語型略語全体の約半分を占め、数が最も多い類型である。そのため、「前単語保留型」は依然として主流形成であると考えられる。

外国語の略語をそのまま転写して日本語の略語形を造るという語例を除き、「前単語保留型」略語が多く生産されることについて、主に二つの原因が考えられる。

(一)、前単語を残したほうが原形を復元しやすいこと。一部隠語の性質を持つ語例を除いて、略語形を見る(聞く)と原形を思い出せるかどうかは考えないといけない重要なことである。複合語外来語は殆ど「前単語+後単語」の構成を持っている。略語化される際に、後単語を残すより、前単語を残したほうが略語の原形を復元しやすい。

(二)、「修飾部+意味主要部」の意味関係の影響。明治・大正期、昭和前期において、複合語型略語の原形は「修飾部+意味主要部」の意味関係を持つことが多く、略語化される際に、「前単語保留型」に略されやすい傾向がある。例えば、明治・大正期において、「モーニング・コート」(<英 morning coat>)という略語が見られる。その原形の意味関係を見ると、前単語「モーニング」は修飾部にあたり、後単語「コート」を修飾しており、後単語「コート」は複合語の中心の意味を担い、意味主要部である。昭和後期においても、同じような傾向が見られる。例えば、「バスケット・ボール」は前単語「バスケット」が後単語「ボール」を修飾し、球技の一つを表す。「バレー・ボー

ル」において、前単語「バレー」は「ボール」を修飾しており、「ボール」は複合語の意味主要部にあたる。「スプリング・コート」、「ダスター・コート」、「ラップ・コート」はいずれも「コート」の一種類である。略語化において、原形の前単語「スプリング」、「ダスター」、「ラップ」が修飾部であり、最終的に略語形として保留された。後単語「コート」は削除された。

8.2. 「後単語保留型」について

外国語をそのまま転写したものを除き、「後部保留型」の形成はやはり「原語の意味主要部を保留して略語形を造る」仕組みと関わっていると考える。「修飾部+意味主要部」を持つ複合語外来語は「前単語保留型」に略される傾向が見られるものの、「意味主要部」の後単語を保留して「後単語保留型」に略されることもある。

例えば、収集した語例の中で、「レコード・プレーヤー」という例がある。この語は<英語 record player>から由来し、「蓄音器の盤を拡声器やラジオで演奏する機械」を指している。前単語「レコード」は修飾部にあたり、後単語「プレーヤー」は意味主要部にあたっている。略語化される際に、意味主要部「プレーヤー」が残される。「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」(<英語 japan tourist bureau>)は三つの語で構成されているが、「ジャパン(前単語)+ツーリストビューロー(後単語)」と見なすことができる。その構成を見ると、前単語「ジャパン」は「日本、日本の」という意味を持ち、後単語を修飾している。後単語「ツーリストビューロー」は旅行案内所の意味であり、意味主要部であることが明らかである。「コンミュニスト・マニフェスト」(<英 communist manifest>)においても、「コンミュニスト」(「共産党」の意味)は修飾部にあたり、後単語「マニフェスト」(「宣言」の意味)は意味主要部にあたる。略語化される際に、原形の後単語「マニフェスト」が残され、略語形になった。

以上のように、「後単語保留型」は数が「前単語保留型」ほど多くないが、その形成は「原語の意味主要部を保留して略語形を造る」という仕組みと関わっていると考える。

8.3. 「部分抽出型」について

「部分抽出型」の語例は「アチーブメント・テスト」、「コンポネント・ステレオ」、「パーマネント・ウェーブ」、「パースベクティブ・ドローイング」、「パンクロマチック・フィルム」、「プログレッシブ・ロック」、「プレハブリケートッド・ハウス」、「ポップド・ヘア」、「モノラル・レコード」、「ランゲージ・ラボラトリー」、「レフレックス・カメラ」の11例がある。「部分抽出型」の略語は二段階の略語化によって形成するものがかなり多いと考える。

例えば、「アチーブメント・テスト→アチーブ」について、④『最新時事用語辞典』は「achievement test 進学適正検査のこと。略して、進適、アチーブなどをいう。学力試験の問題を多角的に大量に並べ、採点方法を機械的に標準化したもの」のように説明している。原形「アチーブメント・テスト」は二段階の略語化を経て「アチーブ」に略されたと考える。第一段階において、複合語型外

来語「アチーブメント・テスト」は「前単語保留型」の省略パターンで略され、前単語「アチーブメント」が保留され、略語形になった。第二段階において、接尾辞にあたる「メント」を持っているため、「アチーブ（語基）+メント（接辞）」の構成を持つ「アチーブメント」は「前部保留型」の省略パターンで略された結果、「アチーブ」になったと考える。「パーマナメント・ウェーブ→パーマ」において、略語「パーマ」も二段階の略語化を経て造られたと考えられる。第一段階において、複合語外来語「パーマナメント・ウェーブ」が「前単語保留型」の省略パターンで略されて「パーマナメント」になった。第二段階において、単語型の「パーマナメント」は「前部保留型」のパターンで前部の2σを保留して「パーマ」になったと考えられる。⑧『外来語小辞典』は「パーマナメント・ウェーブ」について「パーマナメント・ウェーブ permanent wave 薬品と電気で作られた縮めた婦人の髪（「永久的な波型」の意味。略して「パーマナメント」または「パーマ」）」と説明している。つまり、原形「パーマナメント・ウェーブ」は「パーマナメント」と「パーマ」の二つの略語形を持っていることである。略語「パーマ」は二段階の略語化で形成した可能性が高い。

8.4. 「前後結合型」について

8.4.1. 音韻規則における「 $2\mu + 2\mu$ 」の鑄型

明治・大正期から、昭和前期を経て、昭和後期まで、「前後結合型」という省略パターンは生産力が高くなっていることが明らかである。特に昭和後期に入ると、「前後結合型」は語例が一段と多くなり、複合語型略語の主流形式の一つになっている。

拍数を見ると、「前後結合型」の多数が「 $2\mu + 2\mu$ 」で構成されており、その語例は「前後結合型」全体の7割以上を占めている。「アル_{バイト}・サロ_ン」、「アウト・ドロ_{ップ}」、「アフ_タ・レコ_ー・ディ_ング」、「カメ_ラ・リハ_ー・サ_ル」、「スケ_ー・ト・ボ_ー・ト」、「ファ_ミ・リ_ー・コン_ピ・ユ_ー・タ_ー」などはいずれも原形の前単語の 2μ と後単語の 2μ を保留して結合させて形成したものである。一方、「エア・コン_デ・シ_ョ・ナ_ー」、「オフ・リミ_{ット}」、「ハイ・テク_ノ・ロ_ジ」、「マス・コ_{ミュ}・ニ_ケ・シ_ョ・ン」などの語例は原形の前単語が2拍しかないため、略語化される際に、前単語がそのまま残し、後単語から取った2拍と結合して略語形を造る。「パト_ロ・ル_ー・カー」の場合、原形の後単語がそのまま残し、前単語から取った2拍と結合して略語形を造る。いずれにせよ、「 $2\mu + 2\mu$ 」構成が「前後結合型」の主流形式であることが明らかである。

那須2005は「 $2 + 2$ 」モーラ構造は二つのフットからなる均整のとれた韻律構造F + Fをなすが、この構造が日本語においてしばしば志向されやすいことはオノマトペの語形成や代償延長現象などを通じて従来明らかにされている（筆者後略）。F + F構造は日本語の韻律語形成におけるある種の典型的な「鑄型」として機能していると述べ、「複合外来語の短縮もこの鑄型的な構造を目指している」と指摘している。つまり、日本語の「 $2\mu + 2\mu$ 」の鑄型という音韻規則は「前後結合型」の形成において基礎的に働いていることが考えられる。

しかし、「 $2\mu + 2\mu$ 」の構成に従わない語例も存在する。例えば、語例の中で、「カン_ニグ・ペ_ーパー」、「ドレ_ス・メ_ーキ_ング」と「テレ_ホン・カ_ード」がある。「カン・ペ」は不正受験のため小さな紙にノートしたものを指しており、「ドレ・メ」は洋裁、婦人、子供服の仕立のことを指している。「テレ・カ」は公衆電話で使う代金先払いの通話用の磁気カードを指している。三つの語例はいずれも原形前単語の 2μ と後単語の 1μ で構成されている。原形を「 $2\mu + 2\mu$ 」のパターンで略すと、「カンニグ・ペーパー」が「カン・ペー」、「ドレス・メーカー」が「ドレ・メー」、「テレホン・カード」が「テレ・カー」になる。「カン・ペー」と「カン・ペ」、「ドレ・メー」と「ドレ・メ」、「テレ・カー」と「テレ・カ」を比較して、特殊拍が付いている形と付いていない形とは大きな違いがなく、特殊拍が付いても聴覚上に感知されにくい。そのため、略語化において、略語形の特殊拍が落とされた可能性が考えられる。

8.4.2. 語彙的原因で形成した語例

音韻規則の働きで形成した語例以外、語彙的原因で形成したと考えられる語例も見られる。その構成は「 $2\mu + 2\mu$ 」を取らない場合が多い。以下のような語例が見られる。

(一)、「 $1\mu + 1\mu$ 」構成の語例。「デ・ポ」は恐らく〈仏語 *dépôt*〉の転写であろう（『日本国語大辞典 第二版』の「テポ」項目を参照）。それ以外、他の語例は既に存在した省略パターンに影響されて形成したものであると考える。

「ステーブル・ファイバー」は〈英語 *staple fiber*〉から由来し、人工繊維の一種である。「マル_クス・ボ_ー」はマルクス主義を信仰する青年のことを指している。「モ_{ダン}・マ_ダム」は「家庭を外に、キネマ・ダンス・スポーツに日を過す有閑階級の奥さん」の意味を表す（②『新修改版 新聞雑誌語辞典』の「モダンマダム」項目を参照）。「ベース・アップ」は賃金の総体的な基準を引き上げることを意味する。

余2021が語例を収集する際に、昭和前期の辞書から「モ_{ダン}・ボ_ー」、「モ_{ダン}・ガ_{ール}」という略語を収集した。「モ・ボ」、「モ・ガ」は当世風の男性（女性）の意味を持ち、昭和前期の流行語として挙げられる。そのため、二つの語は普通の「 $2\mu + 2\mu$ 」で略さず、敢えて「 $1\mu + 1\mu$ 」で略されたと考えられる。つまり、「 $1\mu + 1\mu$ 」の構成パターンは昭和前期において既に存在しており、その語例は流行語の性質を持っている。昭和後期の語例「ス・フ」、「マ・ボ」、「モ・マ」などの語例は既に存在した略語「モ・ボ」、「モ・ガ」のような「 $1\mu + 1\mu$ 」の造語パターンの影響で造られたと考えられる。

(二)、「 $1\mu + 3\mu$ 」構成の語例。略語「ブル_ガー_ニン・ライン」は漁業について昭和三十一年三月ソ連閣僚会議が発表した制限水域のことを指す。原形の前単語「ブルガーニン」はソ連人の名前である。略語化過程において、「ブルガーニン」が「ブ」だけに略され、後単語「ライン」と結合して略語形を造った。調査した辞書に載せていないが、この語以外に、「李ライン」（原形「李承晩ライ

ン]、「マ・ライン」(原形「マッカーサー・ライン」)の語例が存在している。上記の三つの略語はいずれも原形が海洋・漁業関連の語であり、「人名+ライン」で構成される。略語化において、前単語の人名を 1μ まで略し、後単語「ライン」はよく使う外来語であり、略せずにそのまま利用し前単語の 1μ と結合して「 $1\mu + 3\mu$ 」の語例を造ったと考える。

「セントラル・リーグ」、「パシフィック・リーグ」はいずれも日本のプロ野球リーグ名である。原形の後単語「リーグ」はよく使われる外来語であるため、略語化において保留する可能性が考えられる。前単語「セントラル」、「パシフィック」は 1μ だけを残して、リーグの種類を示す。「セ・リーグ」、「パ・リーグ」以外、「ア・リーグ」、「ナ・リーグ」や「Jリーグ」などの語例も存在している。

「アチーブメント・テスト」は学力検査のことを指す。後単語「テスト」も日常においてよく使う外来語である。略語化において、前単語「アチーブメント」は 1μ の「ア」に略され、「テスト」と結合して略語形を造ったことが考えられる。

(三)、その他の語例。語例の中で、「 $3\mu + 2\mu$ 」や「 $2\mu + 3\mu$ 」などの構成を持つものも見られる。<英語 telecast>から転写した「テレ・キャスト」、<英語 heliport>から転写した「ヘリ・ポート」などの語例を除き、略語が他の語(あるいは略語)と組み合わせて形成したものは殆どである。例えば、「デモ・アート」は「デモンストレーション」の略語形「デモ」と「アート」とが形成したもの、「ヒス・ノイズ」は「ヒステリー」の略語「ヒス」と「ノイズ」が結合して形成したものであろう。「マネー・ビル」は「マネー」と「ビルディング」の略語「ビル」と結合して形成したものであろう。「テレビ・コンテ」は「テレビジョン」の略語「テレビ」と「コンティニューティ」の略語「コンテ」との組み合わせである。

以上のように、「前後結合型」の形成を分析したが、音韻規則が働いた結果、「 $2\mu + 2\mu$ 」構成の語例は最も多く、「前後結合型」の主流になった。「 $2\mu + 2\mu$ 」の鑄型に従わない語例も存在するが、「テレホン・カード」のような「 $2\mu + 1\mu$ 」語例は「 $2\mu + 2\mu$ 」で略すと、略語形が特殊拍で終わるため、特殊拍が脱落した可能性がある。一方、「 $1\mu + 1\mu$ 」、「 $1\mu + 3\mu$ 」、「 $3\mu + 2\mu$ 」や「 $2\mu + 3\mu$ 」などの語例は恐らく語彙的な原因で形成したであろう。

9. まとめ

本稿は辞書調査を行い、昭和後期において初めて出現した外来語略語を収集した。その結果、単語型略語118例、複合語型略語333例を集めた。語例の類型を分析した限り、明治・大正期、昭和前期と比べると、単語型略語でも複合語型略語でも、新しく産出した外来語略語が多くなっている。複合語型略語の「前後結合型」の語例数が急増し、既に複合語型略語の主流形式になっていることは昭和後期における外来語略語形成の顕著な変化点である。

<参考文献>

- 惣郷正明・飛田良文1986『明治のことば辞典』東京堂
- 田辺洋二1988「外来語の略語—カタカナ語とローマ字語—」『日本語学』7-10 明治書院
- 窪藪晴夫1995『語形成と音韻構造』くろしお出版
- 鈴木俊二1996「外来語の略語の構造—音節・モーラ・フット・語—」『国際短期大学紀要』11 国際短期大学
- 窪藪晴夫2002『新語はこうして作られる』岩波書店
- 那須昭夫2005「複合外来語の短縮に見る特殊モーラの非対称性」『日本語・日本文化研究』15 大阪外国語大学日本語講座
- 窪藪晴夫2010「語形性と音韻構造—短縮語のメカニズム—」『国語研プロジェクトレビュー』No.3 国立国語研究所
- 橋本和佳2010『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』ひつじ書房
- 太田聡2014「短縮語形成管見」『異文化研究』8 山口大学人文学部異文化交流研究施設
- 文昶允2017「短縮語の形成方略に観察される世代差について—前部要素の2モーラ目に長音を含む外来語とその選好傾向—」『日本語の研究』13-3 日本語学会
- 余澤涛2019「明治・大正期における外来語略語の形成—単語型略語を中心に—」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』48 岡山大学大学院社会文化科学研究科
- 余澤涛2021「近代語における外来語略語の形成」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』50 岡山大学大学院社会文化科学研究科
- Itô,Junko1990 “Prosodic minimality in Japanese.”*CLS 26- II : Papers from the parasession on the Syllable in Phonetics and Phonology*,pp.231-239